

オープンダイアログのために〈も〉、 反想(法)=リフレクティングと ほぐしばい=フォーラム・シアターを学ぶ

新しい対話、新しい関係、
新しい自分のために、

開かれた場で言葉と身体が響き合う

誰かの声が、閉じ込めていた思いを解き放してくれるときがあります。誰かの振るまいが、塞がった状況に別のやり方を提示してくれることがあります。

個人や集団が陥りがちな思い込みから逃れるために、話せない関係・話しても無駄と思える関係・話し合うほど失望や怒りが増加してしまう関係を避けるために、その手立てを共に探りませんか。

場は似たような声に緩み、異質な声に緊張し、遊びどころある声に和み、情感ある声に揺さぶられます。しかし、どんな声にも物語を動かす可能性があります。

わたしたちはいつも関係の中にいます。場にそれぞれの声を聞き重ね合い、新しい関係づくりを体験的に学び合ひましょう。

■ ファシリテーター/いさくこと 滝野功久



立命館大学院元教授（応用人間科学研究、臨床心理学コース専任教員）
パリ第五大学院学術博士（人文科学）

独自の考えと手法で知られる「いさく」こと滝野功久による、対話と遊び心に満ちたワークショップは、いさくが CIIS（カリフォルニア統合研究所）の大学院ドラマセラピー部門から帰ってきた2009年以来、いろいろな形で行われて来た。最近出会ったオープンダイアログが、それ以前からやってきた全てに繋がることを発見し、その発展と普及のためにさまざまな試みをしている。



- 1日目：反想(法)を日常の中で生かす、日常を問う
- 2日目：パフォーマンスを使ったナラティブ・プラクティス
ほぐしばい=フォーラムシアター

日 時：2019年 12月7日(土)・8日(日) 両日とも 10時～17時

場 所：京都市下京いきいき市民活動センター 京都市下京区上之町38

定 員：1日目 25名／2日目 20名 《参加資格：概ね15歳以上であれば、どなたでも参加いただけます！》

参加費：一 般 料 金／両日参加 9,000円（1日のみ5,000円）

日本臨床心理学会員／両日参加 6,000円（1日のみ3,500円）

18歳以下／両日参加 3,000円（1日のみ2,000円）

1日目

12月7日(土) 反想法 (リフレクティング)

リフレクティング (反想法) は、ノルウエーのトム・アンデルセンが家族療法のなかで発想の大転換を通してはじめた手法ですが、その後、フィンランドで始まったいま大きな話題になっているオープンダイアログ (精神医療ケアのネットワークで、考え方) のなかで活かされているものです。ある人の問題や困難についてグループが話し合う様子をその当事者自身が観察できる状態をつくり、対話を展開します。

時空間の間 (ま) と集団をうまく活かすことで、グループと個人の中にある声の多様性を引き出し、個々人や集団が陥ってしまっている「固定した決めつけ」から解放されるための新しいコミュニケーションのトレーニングです。反想法を身につけると家族や職場などで日常的に生まれる、話せない、話しても無駄、話し合うほど失望と怒りが増加する悪循環は避けられるようになると思います。

2日目

12月8日(日) ほぐしばい (フォーラム・シアター)

ブラジルのアウグスト・ポアルが始めた民衆演劇の手法で、日常にある問題をみんなで共有し、解決を探り合うためにドラマをつくって、動きのなかで、別の見方ややり方はないかと、みんなで考えていくものです。

人々が抱える様々な問題を物語りとして表現し、さらに観客と一緒にそれを改変してみることを目指すナラティヴ・プラクティスです。出来上がっている言葉や文化の常識に固め取られてしまっているものごとを、パフォーマンスと遊び心で、ほぐすためのお芝居です (名付けて「ほぐしばい」)

演劇とかパフォーマンスなどと言われると及び腰になる人も多いですが、この手法では、面白いことに、誰でもそれなりに参加できることを発見できます。そして、集団で楽しみながら、物事や世界そして、特に自分について、これまで知らなかった新しい部分を発見できるでしょう。この試みは、1日目の反想法をさらにエンパワメントするものです。

会場

今回の会場は、
『京都市下京いきいき市民活動センター』
京都市下京区上之町38

- ◎JR京都駅から徒歩8分
- ◎京阪七条駅から徒歩7分



Kyoto
Open Dialogue / Reflecting
Association

K·Odra

主催：京都オープンダイアログ・リフレクティング研究会
共催：オープンダイアログ・リフレクティング研究会
後援：日本臨床心理学会

Kyoto
Open Dialogue / Reflecting
Association
K·Odra
Facebook

